

上級中国人日本語学習者の読解の問題点

——再話・筆記再生タスクの分析を通して——

*高 橋 亜 紀 子

Reading Comprehension Difficulties in Advanced Chinese Learners of Japanese;
Based on the Analysis of Retelling Task and Recall Task

TAKAHASHI Akiko

Abstract

本稿では、日本語学習者の読解指導の方法を考えるために、上級の中国人日本語学習者と日本語母語話者とを対象に、読解の授業で再話と筆記再生という2つのタスクを行い、それらを分析して日本語学習者の読解上の問題点を明らかにした。大意が把握できているように見えても結論が読み取れていない、具体例は挙げることができるが結論には結びつかない、単語や文などを組み合わせてもうまく推測できない、読み誤っていることに気づかない等、上級の学習者であっても、多くの問題を抱えていることが分かった。

Key words : 日本語学習者 (Japanese Language Learner)
読解 (Reading Comprehension)
読解過程 (Reading Process)
再話 (Retelling)
筆記再生 (Recall)

1. はじめに

外国語の文章を読んでいるとき、単語や文の意味は分かっても全体の内容がつかめない、読み終わったあとで何が書いてあったのか母語で読むときほどはつきりとは覚えていない、などという経験は誰にでもあるのではないだろうか。

日本の大学や大学院で学ぶ留学生の多くは、母語に比べて限られた能力で、大量の文献や資料から必要な情報を読み取り、選び出し、それらをレポートや論文にまとめる作業をしなければならない。

一方、留学生を対象とした日本語の授業では、文法や語彙、文章の正確な理解などの基礎的学習が中心

で、大学で現実に必要な読解の実践的学習が十分に行われているとはいえないのが現状である(二通, 2006)。そのため、専門分野が異なる学習者一人一人に対し、授業以外でも、自律的に読む力を養成する指導法の確立が急務である。

読解の研究では、ボトムアップモデルとトップダウンモデル、相互作用モデル、スキーマ理論などが広く知られており、こうした研究成果を踏まえた読解指導が教室でも行われるようになってきた。

また、読みの過程を仲間と分かち合いながら読む「ピア・リーディング」という授業活動(館岡2005)や読解に有効であると言われる「読解ストラテジー」を利用した教材(石黒ほか, 2011)、Web上で語彙や文

* 宮城教育大学国際理解教育研究センター

法を参照しながら読める「日本語読解支援システム」(川村, 2009)なども相次いで日本語教育に導入されてきた。

では、こうしたものを読解指導に取り入れるだけで十分なのだろうか。館岡(2005)が「読み手の頭の中は外から見えない。しかし、適切な指導、支援をするためには、学習者の読みの過程を知らなければならない。」と指摘しているように、教師は目の前にいる学習者が読みのどこで、何に、どのようにつまづいているのかを分析し、指導を考える必要がある。

2. 研究の目的

本稿では、日本語学習者の読解を支援する方法を考えるために、上級の中国人日本語学習者と日本語母語話者とを対象に、読解の再話・筆記再生タスクを行い、両者の結果を比較・分析することを通して、学習者の読解上の問題点を探ることを目的とする。

3. 再話・筆記再生タスク

先にも述べたように、読解は頭の中で行われており直接調べることはできない。しかし、読解過程を調べる方法として、思考発話法や質問紙調査、再生課題、インタビュー調査、眼球運動測定や読解速度測定などがある。

これらのうちで、授業中にも比較的実施しやすい「再生課題」をタスクとして、学習者の読解の問題点を探ることにした。

再生課題というのは、読み手がどのように情報を理解したかを測定する方法の1つである。読んだ後に文章を参照せずにその内容を思い出せるかぎり想起するという課題で、口頭で行う場合には「再話」、書き出す場合には「筆記再生」となる。今回はこの2つをタスクとする。

再生課題の利点は、測定実施者の意図やテスト項目の形式や難易度などの影響を受けないことである(中川, 2011)。また、読み手がどのような心的表象を構築しているかという読解過程そのものを観察する際にも利用される(木村, 2001)。

4. 再話タスク

再話タスクとは、2人組みになり、各自が読んだテキストの内容をその記事の内容を知らない相手に説明するというタスクである。

4.1. 対象者

国内の大学に所属する中国人研究生及び大学院生(以下、NNS) 8名、日本人大学院生(以下、NS) 5名の合計13名。NNSは全員が日本語能力試験(以下、JLPT)の1級に合格しており、上級の学習者である。

4.2. テキスト

使用するテキストは2種類で、新聞のコラム欄から、形式と文字数がほぼ同じ記事を選んだ。対象者は日本語の授業でも新聞記事を読んでその内容を発表する練習をしており、練習方法や縦書きの文章になじみがある。

テキストAは、「時代で変わる常識／「誰の」問う視点不可欠(817文字)」(河北新報2011年12月15日)、テキストBは、「選べないから面白い／人間関係、思わぬ展開も(816文字)」(河北新報2012年1月12日)、である。

4.3. 手続き

再話タスクは、日本語学習の一環として、研究生向け(NNS5名)及び大学院生向け(NNS3名、NS5名)の2つの授業中に実施した。(1)AまたはBのいずれかのテキストとその読み方の指示文「この記事を読んだ後に、内容を知らない人に何が書いてあったのか日本語で説明してもらいます。ですから、よく読んでください。」を渡し、NNSは8分、NSは4分で読む。(2)用紙を回収して全く違う話題を提示する(直後の短期記憶を減少させるため)。(3)ペアになってお互いが読んだテキストAまたはBを相手に説明する(時間制限なし)。

なお、分からない単語があっても理解できないということがないように、辞書の使用は認めた。読解時間については、普通の授業でNNSが要する時間を考慮して設定した。

4.4. データの収集・分析方法

データの収集は、まず、ペアでお互いに説明しているところをICレコーダーに録音する。次に、録音した

ものを書き起こしてプロトコルデータとする。

分析の方法は、まず、各テキストをアイデア・ユニット (IU) に分ける。IU とは基本的に1つの主節または従属節を基本とし、その他にも名詞句、動名詞、名詞句、重要な前置詞句なども1つのユニットと定義される (Carell, 1992)。ここでは、この定義に基づき、ユニットに区分する。ただし、原文で「 」書きされている内容は複数の文であっても1つのIUとした。また、連体・連用修飾語句が重要な情報の場合には、それを分けて1つのIUとした。

次に、各IUとプロトコルデータを照合し、一致しているものと論旨や趣旨が合致しているものは再生していると数えた。これを再生数と呼ぶ。(3)(2)の再生数が全IU数に占める割合を求め、再生率を出した。

4.5. 結果

まず、テキストAとBの詳細を表1に示す。

表1 テキストAとBの詳細

テキスト	文字数	文数	IU数	2級語彙率	難易度
A	817	19	54	27.6%	少し難
B	816	22	63	16.4%	ふつう

表1の「2級語彙率」とは、テキストの中にJLPTの2級以上の語彙が含まれる割合を示している。難易度はJLPTに準拠して文中に含まれる単語の難易度を自動判定する、「リーディングチュウ太」(<http://language.tiu.ac.jp/>)による判定である。

次に、データの分析結果を表2に示す。

表2 再話タスクの結果

テキスト	A			B		
	NS	NNS	合計	NS	NNS	合計
IU総数	54			63		
協力者(人)	2	5	7	3	3	6
全再生数	23	84	107	65	91	156
平均再生数	11.5	16.8	15.3	21.7	30.3	26.0
平均再生率(%)	21.2	31.1	28.3	40.2	48.1	41.3

表2のテキストAとBの結果を比較すると、平均再生数はAが15.3、Bが26.0、平均再生率もAが28.3%、Bが41.3%となっており、Bのほうが高い。テキストの

難易度は表1よりBのほうが低いので、やさしい文章のほうが再生率が高くなる可能性がある。

NSとNNSとを比較すると、AとBともに再生数・再生率がNSのほうがNNSよりも低い。これはなぜだろうか。

4.5.1. テキストAの結果

ここでは、テキストAの結果から、NSとNNSの特徴や問題点について分析を行う。

まず、表3にNSとNNSの再生数と再生率を示す。

表3 テキストAの再生数と再生率

No	NS		NNS				
	1	2	1	4	5	8	9
再生数	11	12	26	11	25	7	14
再生率	20.4	22.2	48.1	20.4	46.3	13.0	25.9

表3より、表2のところでも述べたが、NSの再生数と再生率がNNSと比べて必ずしも高いとは言えないことが分かる。今回はNSが2名だけなので、個人差が大きく影響しているのではないと思われる。

次に、NSとNNSのそれぞれ80%以上が再生したIUをまとめたものを表4に示す。

表4 テキストAで80%以上再生されたIU

	NS		NNS	
	再生数	再生率	再生数	再生率
36	「ずっとある常識」		1	時代が変わり、
37	と考えてしまいがちです。		2	ずっとあった常識が
38	でもそれはしばしば間違っています。		3	通用しなくなった
48	「常識を疑う」以前に、		5	「頑張れば報われる、いい学校・いい会社に入れる」は
50	「いつの・誰にとっての常識か」を		6	もう成立しない
51	問う視点が必要だ			

表4より、IU総数54のうち再生されたのはNSが6項目、NNSが5項目である。NSとNNSに共通するのはない。NSのIUは36~51と後半の部分が多いのに対し、NNSは1~6と前半の部分を中心である。

テキストAは、常識は時代によって変化していくものなので、誰にとっての常識かを大人が踏まえて若者

に伝えるべきだという結論が最後に述べられている文章である。これを念頭において再生されたIUを見ると、NSではこれに相当する部分が再生されているが、NNSでは、再生されていないことが分かる。

次に、実際のプロトコルデータをもとに、NSとNNSの特徴や問題点について分析する。

(1) NSのプロトコルデータの分析

まず、NS1とNS2の2名のプロトコルを示す。

【NS1】

時代とともに常識は変わるって言われます。でも、その常識が変わるんじゃなくて、あの、(1)時代の流れによって常識っていうのはうつろうものであって、その常識を、あー、常識を疑えっていう言葉ありますが、常識を疑えじゃなくて、その常識は誰にとっての常識かと、(2)どの時代にとっての常識かっていうのを、みき、見極めなければいけない的な内容が書かれていたと思います。

【NS2】

(3)あたしがよんだ記事は、うんと、そのときの常識を、常識がおかしいって疑うよりも、まず、それがどんな常識なのかを他の人に聞きなさい、それを伝えることが大切だっていう記事だったのね。(4)っていうのは、例えば、私世代の人が先生世代の人に、先生はこういう世代だったんですかって聞いたときに、その先生からすると聞かれていますことがちがったりもするのね。っていうのは、私が今常識だと思ってることっていうのは (以下、略)

NS1は再生数が11、再生率も20.4%と低いが、プロトコルを見ると、下線部(1)や(2)のように、原文を別の言葉に言い換えたり、簡潔に要約したりしている。このように、NS1の再生率が低いが、内容理解はできていると考えられる。

NS2は再生数12、再生率22.2%である。まず、下線部(3)のように原文を短く要約した後で、(4)のように本文の具体例を自分の立場に置き換えて説明している。また「っていうのは」という形を多用し、聞き手の反応を見ながら、原文とは別の言葉に言い換えて説明をしている。つまり、内容を理解しているからこそ、こ

のような説明が可能だと考えられる。

このように、N1とN2の再生率は低いが、内容は理解できており、それを自分の言葉に置き換えて再生することができている。

(2) NNSのプロトコルデータの分析

NNSはどうであろうか。再生率の高い順に見ていく。まず、再生率が48.1%と最も高いNNS1のデータを見る。

【NNS1】

今は時代が変わります。ずっとあった常識は、今は通用しない、ということが、あの、作者は実感しました。前は、あの、うーん、がんばれば期待できます、報われます。いい会社、いい学校に入れる。でも、でも今はその時代じゃない。それは1960年代のこと。そのとき日本社会はじっ、実質成長、経済成長率も高い、進学率も高い、その頃の人はそのような常識を持っています。でも今の、今の人は、あの、競争が厳しい。そのような、通じません。たぶん、そのような常識。そしてあの、作者は、あの、大学の教師です。ある日、あの、学生たち、ゆとり教育の、あの、ゆとり世代の学生から、あの、問題を聞きました。あの、先生は、バブル、バブル、バブル世代、ですか。その作者は驚きました。自分は本当にどのようにどの世代ですか。あの、たぶん、あえていえば、自分は団塊ジュニア世代とか、氷河期世代とかいえばたぶんいいと思います。そのとき、あの、学生は、気のない、なんか、実際、関心しない、自分は今、うん、リアルに皮膚感覚をできる、できたのは、自分の生きている数十年ぐらいの間、その前のこと、20年前、15年前とか、25年前とか、ぜんぜん関心がない。あの、全部そのときの、話、そのときのことは全部教科書から習いました。(1)自分が本当に実感できるのは、あの、今を生きている間だけのことです。あの、常識もこの間も、成り立ちました。時代の移りにしたがって、常識も通じないこともしばし、時々あります。この、以上です。

NNS1は、原文に沿って最後の部分まで再生することができている。このことから全体の内容は把握できているのではないかと思われる。ただし、常識を問う姿勢については(1)のところで再生されておらず、結論

の部分の理解が不十分である可能性もある。

次に、再生率46.3%のNNS5を見る。

【NNS5】

(2)あの私の新聞記事は、作者は今、常識、常識？、常識（中国語）、一体何、一体何ですかという問題について、自分の意見を述べました。具体の例をあげて、うん、そして自分の考え方をまぜて紹介してくれました。で、時代がかわって常識、常識も変わります。たとえば、昔はなんか一生懸命頑張れば報われて、大、いい会社も入れて、いい大学も入学できて、そのような常識は、昔、例えば、(3)1960年代生まれの人たちが持っている常識ですけれども、今は実は通用していないんです。(中略) 作者は、あー、やっぱりね、常識というのは、あの、時代によって人によって違いますよという、あの、ことを意識しました。じゃ、(4)これからは、意識、常識というと、いつの常識、誰に対しての常識を意識しなければならない、そういう必要があります。これから、今の若者には、何を伝えるか、を考えて伝えたほうがいいじゃないかと作者は思いました。(以下、略)

NNS5は、まず(2)のように記事の内容を短く要約している。その後で、原文に沿って、(4)のように後半の部分、特にこの文章の結論部分を再生している。このことから、NNS5はこの文章の内容が理解できていると判断できる。ただし、下線部(3)は原文とは異っており、誤って解釈した部分である。

再生率25.9%のNNS9は、NNS1やNNS5よりも再生率は低いが、プロトコルから全体の内容がつかめていると考えられる。

次に、再生率20.4%のNNS4のデータを示す。

【NNS4】

あ、時代が変わり、変わり、変わるとともに、あの一、昔から通用した常識、今でも、ずっと使える、使えるわけがなくなっています。あ、どうしよう。で、あの、今ゆとり社会、の中で、あの、ある学生が先生に、で、先生が、うー、バブル世代ですかと聞かれて、先生が自分は、あー、ちょっと、そういう感じで、でも先生が自分が1978年生まれで、(5)そのときちょうどバブル時代ですが、あ、バブル、バブル世代かなとこのようにあの学

生に教えたけど、あの、あの、学生、学生さんかは？とあまり、気が、気がしないままで、その、終わって、その、そのように終わり、終わってしまいました。で、あ、で、昔、昔が、あの、なんか、がんばれば、ははは、がんばれば報われるが、いい学校、いい会社に入れる、に入ると、よくななんかみんな言われてる、言われたが、でも、それ、今、完全に成立ができなく、なくなっています。で、うん、これがみんなが大間違いで、うーん、で、よくが、自分が頑張れば、あん、なんか必ず、必ずなんかもらうとか、それについてこれが大間違いって、大間違いって言われた、言われました。で、(6)今の社会、進学率が高いし、経済実質も高い、率が高いから、で、(7)この、今のゆとり社会の中、中からで、あ、結構いろいろな問題が、うん、生じて、あ、本当になんか今、先生として、どうやって学生たちに、うーん、今の、なんか社会から、自分の目から見るか、あの、歴史で、えー、見るか、あの、この問題点についてどう、どう教えるべきか、先生もちょっとわからなくなって、わからないから、以上です。

NNS4は原文に沿って再生している。下線部(5)のように事例も説明しているが、原文とは異なっている。ここでは、バブルや団塊ジュニア、氷河期などのなじみのない単語が多く出てくるので、NNS4はどの世代のことを指しているのか理解できなかったのではないかと推測される。ただし、NNS1やNNS5にはこうした誤りは見られなかった。

下線部(6)には、今の社会の進学率が高いとあるが、原文では1960年～20、30年（1980～1990年）のことであり、NNS4の読み誤りである。下線部(7)は、先生も分らないとあるが、原文にはない。(5)、(6)もテキスト中の単語で説明しようとしているが、原文の内容とは一致していない。つまり、NNS4は、ここで筆者が何を言いたかったのか、主題となる部分が把握できなかったと見られる。

最後に再生率13.0%のNNS8を示す。

【NNS8】

(8)私が読んだ記事は、ずっと昔からもっている常識は時代によって、あの、うつかわりました。その、についての記事です。たとえば、あの、頑

張れば、あの、大学に入ることができます。と、あの、がんばれば、あの、いい会社に入ること、できる、入ることができます。と、時代によって、ちょっと変わります。たのようです。でも全部のことじゃないです。しばしばそういうことがあります。この記事の、あの書く人は大学の先生です。(9)ある日、ある日、あの学生が先生に聞いて、あの、氷河期と聞かれているときは、先生はちょっとわからないです。そういう、についての記事です。以上です。

NNS 8は(8)のようにトピックを提示した後で、具体例を述べている。表4に示したIUに相当する部分は再生されているが、後半部分のIUには全く触れられていない。

下線部(9)は原文には書かれていない部分で、ここはNNS4と同様に理解できなかった部分だと推察される。

以上のように、NNSの場合、再生率には理解度がある程度反映されているようである。IUを調べて、どのIUが再生されているかを見れば、理解度もある程度は推測できると思われる。また、NNSの中にもNSのように要約できる人もいるが、知らない単語が多く出てきたときに、意味を推測しようとして、原文とは違う推測をしてしまう人も見られた。

(3) まとめ

ここでは、テキストAの結果をまとめる。

NSの場合、再生率には理解度が反映されていなかった。しかし、再生されたIUを細かく見てみると、結論に当たる部分の再生が多いことが分かった。また、プロトコルデータからは、要約や言い換え、事例を自分の立場に置き換えた説明、相手に応じた説明などができており、テキストAを読む上で問題がないことが分かった。

一方、NNSの場合には、理解度が再生率にある程度反映されており、再生率の高い人のほうが理解できていた。再生されたIUには、NSと異なり、結論の部分が含まれていなかった。プロトコルデータからは、原文に沿って具体例を多く再生していることが分かった。この具体例の再生が多いので、NNSの再生率が高くなっていると考えられる。また、再生率の低いNNSには単語や文などの読み誤りも見られた。

4.5.2. テキストBの結果

ここでは、テキストBの結果から、NSとNNSの特徴と問題点について分析を行う。

まず、表5にNSとNNSの再生数と再生率を示す。

表5 テキストBの再生数と再生率

No	NS			NNS		
	3	4	5	2	3	10
再生数	16	18	57	32	20	13
再生率	25.4	28.6	90.4	50.8	31.7	20.6

表5より、NS5が90.4%、NNS2が50.8%と、この2名の再生率が高いが、そのほかは30%程度である。

次に、NSとNNSのそれぞれ80%以上が再生したIUをまとめたものを表6に示す。

表6 テキストBで80%以上再生されたIU

No	NS		NNS	
	1本100円の普通のダイコンと	10	全然着なかつたことは、	10
40	1本100円の普通のダイコンと	10	全然着なかつたことは、	10
41	200円の有機栽培のダイコンがあり、	16	今さまざまな場で「選択」がキーワードです。	16
42	どちらを買うか、	40	1本100円の普通のダイコンと	40
44	けれども「関係」はそうではありません。	41	200円の有機栽培のダイコンがあり、	41
48	関係は自分と他人のコミュニケーションの産物ですから、	42	どちらを買うか、	42
49	飛び込んでみるまでは、			
50	事前には分かりようがありません。			
51	「第一印象は最悪だった！」という人と			
60	「選べないもの」も大切です。			
61	築いてみるまで			
62	どんなものか分からない、だからこそ、			
63	人間関係は面白いのでしようから。			

表6より、IU総数63のうち、再生されたのはNSが12、NNSが5項目である。NSとNNSに共通するのはIU40、41、42の3項目である。NSは40～63と後半のIUが多いが、NNSはそうではない。

テキストBは、選ぶといっても選択できるものとして

きないものがあり、人間関係というものは選択できないからこそ面白いという内容で、結論が最後に来る文章である。

(1) NSのプロトコルデータの分析

再生率の高い順にプロトコルを見ていく。まず、再生率が90.4%と最も高いNS5のデータを示す。

【NS5】

(1)私が読んだ記事の話をします。えー、私が読んだ記事は選ぶことと選ばないことっていうことが見出しに出ていました。で、その、現代では、その、(2)最初に服の例が出てて、あんまり着ないと思ってたのに、たくさん着ている服ってありますよねとか。(以下、略)

NS5は、(1)のように冒頭でテキストのテーマや見出しに触れている。そして、原文に沿って(2)のように事例を挙げ、詳しく説明している。

また、「導入として書かれている」「背景が書かれている」など、テキストのどの部分に、どのような役割で書かれているのかについて、聞き手にわかりやすく説明していた。NS5は、このように丁寧な再生を行っているため、再生率が高くなっているのではないだろうか。

次に、再生率28.6%のNS4を見る。

【NS4】

はい、じゃ私が読んだ記事の話をします。うんと、何から話そうかな。っと、(3)人間関係の面白さ、についての記事です。人と人とのつながり、関係？についてのおもしろさの記事、おもしろさについての記事、です。で、内容としては、うーんと、例えば、うーん、人生のいろんな場面で (4)選択ってあるよね？(以下、略)

NS4は(3)でテーマ「人間関係の面白さ」を述べている。また、(4)のように聞き手に問いかけ、相手に応じて内容をわかりやすく言い換えて説明ができていた。

最後に、再生率が25.4%で最も低いNS3のプロトコルを示す。

【NS3】

えっと、あのコラムで書いてあったのは、人間関係っていうのは、選択をして、いって、あの人と仲良くなりた、この人と人間関係を作りたい

いっていうふうに、自分で、選択をしていつも決められるものではなくって、自分があまりこの人と仲良くできないかもしれないとか、人間関係築けないかもしれないなって思ってた人と、何か用事があってつきあってったりとか、こう、その人との人間関係を、こう、どうしてもつきあわなきゃいけないっていう過程の中で、仲良くなってたり、友達になったりとか、そういうふうに自分の意思では築けるものではなくて、時間を使って、経て、だんだんだんだん人間関係ができていくものなんだなっていうことを伝えたい記事で(以下、略)

NS3は、原文の事例をさらに具体化し、NS4のように、相手が理解しているかどうかを確認しながら説明を行っている。

以上より、NSのプロトコルからは、再生率が異なっても、理解上の問題点はないと考えられる。特に、NS1のように文章の流れが分かるように説明を加えたり、NS3やNS4のように聞き手が理解できるように、反応を見ながら例を挙げたり、言い換えたりしているのが特徴的であった。相手に応じて説明するために、原文とは異なる単語や表現が多く使われることとなり、結果として再生率も下がる。

(2) NNSのプロトコルデータの分析

再生率が50.8%と最も高いNNS2よりみていく。

【NNS2】

なんかね、(5)服を買う時さー、あ、これ、あ、あ、あまり着ないと思ったけど、実はよく着ています。あ、この服は私たぶんよくきますと思ったけど、実はあまり着てないという状況がたまにあります。それは選択です。あの、人の生涯の中で、選択を、選択することは、必ずよくあります。(以下、略)

NNS2は下線部(5)のように、原文に沿って、最後の部分まで説明しており、内容も理解できていた。

次に、再生率31.7%のNNS3のプロトコルを示す。

【NNS3】

(前略) (6)人間関係はどううまくいきますか。そのときは、なんかいい友達選びますか、悪い友達、友達が選べますか。なんか、知らない人はいつの

まにか、たぶん、に、に、恋愛のこと、なんか、なりました。そのときは、自分の意識は、前は知っていますか。知らないですか。あとは、知らないときはどうしてうまくいきますか。でも、なんか、知って、なんか、やること前に、知っていても、どうしてうまくいかないですか。それは人間関係です。(7)だから、選んだことなのに、よくない気持ち、場合が多いです。以上です。

NNS3はトピックを述べた後で、原文の具体例を挙げながら、下線部(6)のように疑問形を繰り返しながら説明をしている。下線部(7)を見ると、主題である「人間関係は選べないからこそ面白い」とは異なる解釈になってしまっており、結論部分が理解できなかったと考えられる。

最後に再生率20.6%で最も低いNNS10を示す。

【NNS10】

あたしが読んだの記事は選ぶの力、選ぶの力ってことです。人生の中でいろいろなことを選ばなければならないです。学校とか結婚の相手とか、なんか買い物するとか。時々、その服は、例えば服買うときね、買うかどうか、あと、自分、いろいろ考えて、着るの回数とかいろいろ考えて、買ったの。(中略)あとなんという、(8)だいたい、選ぶの力、そのよく、まずよくわかって、あと、ふふふ、あと、何かな。同じ、同じ。だいたいそういうことですね。(以下、略)

NNS10はNNS5と同様に、具体例を中心に説明している。しかし、下線部(8)より、結論が明確には再生されていないことから、十分には理解できていないことがわかる。この他にも、説明ができない部分では笑ったり、相手に助けを求めたりする様子も見られた。

以上より、NNSのプロトコルデータから、原文の具体例を中心に再生する傾向があることが分かった。同時に、具体例を挙げることができても、結論の部分が示せないことが分かった。

テキストBも、Aと同様に、原文の最後にまとめの部分がきており、この部分が再生できたかどうかで、理解できたかどうか判断できる。このようにしてみると、NNSの再生率はNNSの理解度がある程度反映しているとみることができる。

(3) まとめ

ここでは、テキストBの結果をまとめる。

NSの場合は、再生率が異なっても理解上の問題はなかった。再生されたIUを見ても、後半の部分が多く再生されており、結論まで理解できていた。プロトコルデータからは、NS1のように文章の流れが分かるように説明を加えたり、NS3やNS4のように聞き手の反応を見ながら、理解しやすい例を挙げたり、言い換えたりするのが特徴であることが分かった。

一方、NNSの場合は、理解度が再生率にある程度反映されていた。再生されたIUを見ると、NSとは異なり、結論に相当する終わりの部分が再生されていなかった。プロトコルデータからは、原文の具体例を中心に再生する傾向があることが分かった。しかし、再生率の低いNNSの場合、具体例を挙げることができても、結論までたどり着かないことから、全体としては理解できていない可能性がある。

3.5.3. 再話タスクのまとめ

テキストAの結果から、NSについては、テキストAの理解には問題が見られなかった。また、以下のことが分かった。(1)NSの再生率は理解度を反映しない。(2)再生されたIUは結論部分を含む後半の部分に集中している。(3)要約や言い換え、例を自分の立場に置き換えた説明、相手に応じた説明、などができる。

一方、NNSについては、以下のことが分かった。(1)再生率には理解度がある程度反映されており、再生率の高い人のほうが理解している。(2)再生されたIUは冒頭部分が多く、結論の部分の再生はない。(3)原文に沿って具体例を多く挙げながら再生している。(4)知らない単語や文の意味を理解しようとしてもうまく推測できない。

テキストBの結果からも、NSについてはテキストBの理解には問題が見られなかった。また、以下のことが分かった。(1)理解度は再生率には影響しない。(2)再生されたIUから、結論部分が相当する後半部分の再生が多い。(3)文章の流れを提示して説明したり、聞き手の反応を見ながら言い換えたりする。

一方、NNSについては、以下のことが分かった。(1)再生率に理解度がある程度反映されている。(2)再生されたIUには結論部分の再生がされていない。(3)具体例を中心に再生する傾向がある。

まとめると、NSはテキスト A、Bともに結論を踏まえて言い換えや要約、説明などができており、テキストの理解に問題は見られなかった。一方、NNSはテキストの具体例1つ1つは理解できているように見えても、筆者が読み手に伝えたいメッセージ、結論の部分が理解できておらず、全体像がつかめていないことが分かった。

NSの再生率が低いのは、要約や言い換えで原文よりも短く再生すること、聞き手に応じた説明などを多用するために、原文とは異なる単語や表現を多く使うことなどが影響している。反対に、NNSのほうが原文に依存しているため再生率が高くなったと考えられる。

5. 筆記再生タスク

筆記再生タスクとは、テキストを読んだあとにテキストを見ないで、内容を書き出すというタスクである。

5.1. 対象者

再話タスクと同じ、NNS10名、NS5名の合計15名である。

5.2. テキスト

再話タスクと同様に新聞のコラムから選んだ。テキストCは「知覚のフィルター／知識・価値観で違う認識 (815文字)」(河北新報2012年5月24日)で、文数は18、IU数は59、2級以上の語彙率は22%で、難易度はふつうである。

5.3. 手続き

再話タスクと同様に、研究生向けの授業 (NNS5名) と大学院生向けの授業 (NNS5名、NS5名) で実施した。(1)Cの記事を渡す際に「テキストを読んだ後にその内容を日本語で再生する」旨を伝え、NNSは10分、NSは4分で読んでもらう。(2)用紙を回収して全く違う話題を提示する (直後の短期記憶を減少させるため)。(3)「先ほど読んだ文章の内容を読んでいない人にもわかるように日本語でできるだけ詳しく書いてください」という指示で筆記再生してもらう (時間制限はなし)。なお、指示は田川 (2012) に従った。

5.4. データの収集・分析方法

再生されたものをプロトコルデータとする。分析方法は、4.4. に同じ。

5.5. 結果

分析の結果を表7に示す。

表7 筆記再生タスクの結果 (IU総数59)

NS/NNS	NS	NNS	合計
協力者 (人)	5	10	15
全再生数	151	219	370
平均再生数	30.2	21.9	24.7
平均再生率 (%)	51.2	37.1	41.9

表7より、NSの再生率が51.2%で、NNSの再生率37.1%より高い。筆記再生タスクでも、再話タスクと同様に、NS1が短く要約していたが、それ以外のNS4名の再生数・再生率ともにNNSより高かった。

次に、表8にNSとNNSの再生数と再生率を示す。

表8 テキストCの再生数と再生率

NS					
No	1	2	3	4	5
再生数	11	35	38	25	42
再生率	18.6	59.3	64.4	42.4	71.2
NNS					
No	1	2	3	4	5
再生数	25	25	24	14	27
再生率	42.4	42.4	40.7	23.7	45.8
No	6	7	8	9	10
再生数	22	14	24	22	22
再生率	37.3	23.7	40.7	37.3	37.3

表8よりNSの再生率は18.6~71.2%と個人差が大きい。一方、NNSは23.7~45.8%であるが、ほとんどが40%台に集中している

また、NSとNNSのそれぞれ80%以上が再生したIUをまとめたものを表9に示す。

表9 テキストCで80%以上再生されたIU

NS		NNS	
1	私たちが現実の世界で見たり、聞いたり、感じたりしているものは、	3	受け取り方が違う
14	その時に二つのフィルターを通してためです。	14	その時に二つのフィルターを通してためです。
19	一つ目は「知識のフィルター」です。	19	一つ目は「知識のフィルター」です。
24	すなわち、まず観察する事象に対する	26	一人一人感じ方が変わるので。
25	知識の有無で	27	二つ目は「価値のフィルター」です。
26	一人一人感じ方が変わるので。	35	梅干があるとしましょう
27	二つ目は「価値のフィルター」です。	40	酸っぱそう
31	そのときに対象物について、	41	と感じて、
32	必ず自分の価値観を通じて	44	しかし、梅干しを初めて見る外国人は
33	観察をしています。	45	何かさっぱり分からないので、
45	何かさっぱり分からないので、		
46	記憶に残りにくくなります。		
51	嫌い、という人で		
55	反応するでしょう。		
56	同じ事実に対し、一人一人の認識が常に異なる理由は		
57	二つのフィルターにある。		
58	コミュニケーションに役立つので		
59	ぜひ覚えておいてください。		

表9より、IU 総数59のうち再生されたのは、NSは18、NNSは10項目である。NSとNNSに共通するものは、IU14、19、26、27、45の5項目である。共通するIUをのぞくと、NSは46～59までで後半部分のIUが多い。一方、NNSは後半のIUが少ないことが分かる。

テキストCは、私たちそれぞれの認識が異なるのは、知識と価値という2つのフィルターを通してものを見ていたからだという内容で、テキストA、B同様に、テキストの終わりに結論が書かれている。

(1) NSのプロトコルデータの分析

まず、再生率71.2%と最も高いNS5のプロトコルから分析する。

【NS5】

(前略) (1)以上の2つのフィルターを梅干しを例に説明しましょう。日本人は梅干しを見たときすっぱい日本の食べ物ということを知っているの、口の中がすっぱくなるような感覚を覚えます。しかし外国人が梅干しを見ても、梅干しという食べ物を知らない場合そのようなことは起こりません。(2)これが1つ目の知識のフィルターです。また、同じ日本人の中でも梅干しを「すっぱくておいしい」と感じる人もいれば、「すっぱくて苦手」と感じる人もいます。(3)これが2つ目の価値のフィルターです。この2つのフィルターを知っておくとコミュニケーションがより円滑になるので、ぜひ覚えておいてはかがでしよう。

NS5は、テキストBの再生率も79.2%と非常に高く、原文に忠実に再生しようとする傾向が強い。しかし、そのまま再生しているのではなく、下線部(1)～(3)のように、原文から得られた情報を再構築しながら説明しており、よく理解できている。

次に、再生率64.4%のNS3のデータを示す。

【NS3】

(前略) 一つは(4)「認識のフィルター」と呼ばれるもので、私たちがものごとに出会った際、その対象物をすでに知っているのか否かという違いによって生じる差のことである。(5)例えば日本人ならば誰もが梅干しを知っていて、どういう味がするのを知っている。しかし梅干しを全く知らない外国人からしてみれば、対象物である梅干しに対して日本人が抱くような印象を持つことはないだろう。この時点で対象物のとらえ方に差を生み出すことになる。

そして2つ目に「価値のフィルター」というものがある。これは個人が持つ対象物に対する価値観によって差を生むもので、(6)例えば先ほど出てきた梅干しを考えてみると、同じ日本人でも、梅干しは体にも良く味もすっぱくておいしいという人もいれば、そのすっぱさが嫌いであり食べたくないという人もいる。同じ「梅干し」という対象物でも「認識のフィルター」「価値のフィルター」という二重のフィルターを通すことで、個々の感じ方やとらえ方は大きく異なってくる。

このようにして人間は異なる価値を持って他者と関わりコミュニケーションをとっているのである。ゆえに、実際にコミュニケーションを取ろうとするときにもこの2つのフィルターを意識しておく、より他者との関わりや違いを楽しめるようになるのではないだろうか。

下線部(4)「認識のフィルター」は、原文では「知識のフィルター」なので、間違っ使っている。しかし、プロトコルを見ると原文の内容に一致しており、問題は見られない。知識と価値の2つのフィルターの記述のあとに、両者の具体例として梅干しが紹介されている。NS3はその順序を変更して、下線部(5)、(6)のように各フィルターと具体例を整理しており、情報が再構築できていると思われる。NS2のプロトコルはここでは省略するが、NS3と同様に再構築ができていた。

再生率42.4%のNS4のプロトコルを示す。

【NS4】

(前略) (7)知識のない人間は、対象物に対して、まず「何物なのか？」という所から始まり、知識のある人間のように「これは〇〇だ」と認識し、覚えておくことができない。2つ目のフィルターは、「価値観のフィルター」である。その人間の持つ価値観によって、対象物へのとらえ方が変化してくるのである。(8)同じ対象を認識していたとしても、それに対して、肯定的な価値観化否定的な価値観どちらを持っているかで、話は違ったものになる。「〇〇だからいいなあ」ととらえる人と、「〇〇だから嫌だな」ととらえる人では、全く違った見解を持つ。このように、2つのフィルターを通して人は物事を認識している。人と人とのコミュニケーションでは、常にこのフィルターが各々に作用していることを覚えておくといいだろう。

NS4は、下線部(7)(8)のように原文を言い換えて正しく記述している。また、原文の「梅干し」の例の代わりに「〇〇」を使っている。

最後に、再生率が18.6%と最も低いNS1のデータを示す。

【NS1】

私たちは同じ事実を見たり、感じたりしても、意見が一致することはない。それは同じ物事に対

する「知識」と「価値観」がそれぞれ異なるからである。「知識」があるかないか、また「価値観」が同じかちがうかで決まってくるのだ。これら2つは、コミュニケーションの場でも役立つので覚えておこう。

NS1は、テキストAと同様に、内容を非常に簡潔にまとめているために、再生率が低い。とはいえ、内容が理解できていないわけではない。表9のNSが再生したIU項目のうち、具体的な事例を除いたIUを用いて要約ができています。すなわち、原文から重要な点だけが抽出できていると言える。

以上より、NSの5名には内容が理解できていないと思われる部分は見られなかった。言い換えや要約、情報の再構築などをしながら、再生していることが分かった。

(2) NNSのプロトコルデータの分析

NNSのプロトコルを、再生率が高い順に見ていく。

まず、再生率が45.8%と最も高いNNS5を示す。

【NNS5】

私たちは見たり、聞いたり、感じたりすること、同じ思い出や出来事に対しても、人によって受け取り方が違います。なぜなら、判断をするフィルター、具体的に言えば知識フィルターと価値観フィルターが異なるからだとして作者は述べました。知識フィルターは、この前同じことに出合ったことがあるかどうかということです。価値観フィルターは、自分の理想や好嫌に合うかどうかの問題です。分かりやすく説明するために、作者が梅干しのことを例として挙げました。梅干しを知る人にとって、すぐ酸っぱいとかのイメージを思い出せる一方、梅干しはわからない人にとって、なかなか手がかりがつけません。また、梅干しは体にいい物と思う人と梅干しがすっぱくて嫌いな人と梅干しを見る時反応も違うはずで。つまり、以上の二つのフィルターが人によって違いますから、人と付き合う場合、この違いをちゃんと意識したほうが良いと作者が勧めます。

NNS5は、原文に沿って、2つのフィルターについて梅干しの具体例を用いながら説明できており、全体

が理解できていると思われる。

次に高いのはNNS1とNNS2で、42.4%である。NNS1のデータはここでは省略するが、テキストAと同様に、原文の通りにそのまま再生する傾向が見られ、最後まで再生できているので、理解できていると考えられる。

ここではNNS2のプロトコルを見ていく。

【NNS2】

現実世界を見たり、聞いたり、感じたりするのは、人によって異なる。人脳は五覚を使って現実を感じ取るが、実際、2つのフィルターも良く使う。その一、「知識のフィルター」。人の予び知識によって、受け取るものは違う。その二、「価値のフィルター」。(9)人は自分の価値観を通じて世界を感じ、自分の趣味に応じて、自分の理想を叶うために選ぶ。たとえば、梅干しを見ると、日本人はすぐ「すっぱいものだ」とわかるけど、初めて見た外国人はなにも感じない。そのうえ、日本人の中で、梅好きな人は「おいしそう」と感じるが、梅嫌いな人は「いらぬ」と感じる。

NNS2には最後の結論が書かれていないが、それ以外は再生できていた。下線部(9)は「私たちは一人ひとり価値観が異なり、自分の理想を実現するためにいろいろな行動や思考を選択しますが、そのときに対象物について、必ず自分の価値観を通じて観察しています。」の部分の言い換えたものであると推測されるが、日本語での言い換えがうまくできていないため、理解しにくくなっている。

再生率が40.7%のNNS3とNNS8のうち、まず、NNS8のデータを示す。

【NNS8】

人が現実の中で、見たり、感じたりしたものを取られたのは、人によって違います。これは何ですか。実は初対象に対する時、人が五感を使って知覚します。その時に二つのフィルターがあるため、(10)一つは知識のフィルターです。それは初めて、そのものを見て、どんなものですか、すぐ分かります。そのについての知識を持っているかどうかのことです。例えば、日本人として、梅干しはほんとうに分かります。見たらすぐ酸っぱい感じを出てきます。しかし外国人にとって、

さっぱり分かりません。(11)もう一つは価値観のフィルターです。例えば、梅干しは、見たら、「おいしい」といった人もいるし、「おいしくない」といった人もいます。これは人の考えや価値観が違っていているので、その物の判断が違います。(12)同じ思い出を語って、人によってやっぱり違います。

NNS8は下線部(10)(11)で、2つのフィルターと梅干しの例とを結び付けて記述したNSと同様に、再生できていた。言い換えはあまりできていないが、重要な箇所は述べられていた。(12)の「同じ思い出」とは、「私たちが現実の世界で見たり、聞いたり、感じたりしているものは、人によって受け取り方が違う」こと具体例として「同じ思い出や事件を語っても、人によって記憶が全く違うこともしばしばです。」の一部である。このことから、内容は概ね理解できていると判断できる。

では、同じ再生率のNNS3はどうであろうか。

【NNS3】

世界の中に、見たことや聞いたことを人によって受け取ることが違うかもしれません。それを見たことを人によって語ることがぜんぜん違います。筆者はその原因は、だいたい「知識フィルター」と「価値フィルター」二つを分けます。「知識フィルター」は、見たことや聞いたことを認識的に違えます。(13)「価値フィルター」は、「梅干し」を例として挙げます。「梅干し」を見た日本人はすっぱいイメージも、唾液を出てくるかもしれませんが、初めて見た外国人はそのイメージがあまり残っていません。また、好きな人は「梅干し」がすっぱいけれど、体にいいものを認識があります。逆に、嫌いな人は「梅干し」が見るといらぬ気持ちがあります。(14)だから、事物、ものによって、考え方、価値観が違うかもしれません。

NNS3は、下線部(13)のように「価値フィルター」の例として梅干しを記述しているが、NSやNNS8のように、2つの事例であることを分けて説明してはいない。また、下線部(14)には、2つのフィルターによって認識が異なるという結論が書かれておらず、全体の理解には至っていないと思われる。

では、今度は再生率が23.7%と低かったNNS4と

NNS 7 のデータを見てみる。

先に、NNS 7 のデータを示す。

【NNS 7】

(15)知識によって価値観が違う。受け取る方法によって、同じ物事でも違う価値観を持っている。人間は二つの(16)フィルターがある。一つ目は知識のフィルターである。(17)例えば、中国で胡瓜とたまごはよく一緒に炒めます。しかし、この知識は知らない日本人にとって、不思議だと思われる。つまり、人々によって持っている知識が違う。二つ目は価値のフィルターである。例えば、梅干しは日本人にとって酸っぱいのイメージであるが、初めて日本に来たの留学生にとって、梅干しはどのような食べ物であるが、わからないので、あまり記憶を残らない。つまり、ある物に対して、ある程度の知識を持れば理解しやすい。(18)これからグローバルの世界になっていくの中、さまざまな知識を持れば、多くの人々とコミュニケーションをとれると考えている。

下線部(15)は原文にはなく、読み誤りであると思われる。下線部(16)は表記の誤りである。下線部(17)は、原文の「梅干し」の例と自分の知っている知識とを結び付けて身近な具体例を述べており、一見理解が進んでいるようにも見える。しかし、下線部(18)は原文に書かれてはいない。ここから、NNS 7 は、原文で理解できた部分をつなぎ合わせて意味を推測してこのような結論を出したのではないかと考えられる。NNS 7 は、読みながら推測したことと原文とを照合し、自分が理解できているかどうかをモニターすることがうまくできていないように思われる。

最後に NNS 4 のデータを示す。

【NNS 4】

(19)人の認識は人間の五感から表す。人間はおなじものから価値観がそれぞれである。同じものから人間の脳に二つのフィルターを働かせることがある。知覚フィルターは主に人間の意識を表す。(20)例えば、梅干しに対して、外国人にとってさっぱりわからない人と何の味であろうか、二つのグループに分けられる。日本人に対して、梅干しは体にいいだと言う人もいる。わー、おいしそうと言う人もいる。わー、嫌いという人もいる。これを見

ると同じ体験同じものから見える価値観はそれぞれに出てくるのを分かる。知識や意識や価値観など人によって違う結果がよく出てくるのを分かる。(21)基準を作れば、みんなの考えは同じになるだろうか。みんなの思考力、判断力も同じだろうか。こすればいいだろうか。やはり価値観の違う伴に人の価値観もさまざまであると見られる。みんなは一分ずつと社会に役立つことができると思う。

下線部(19)は、原文を言い換えようとしたのだと思われるがうまくできていなかった。下線部(20)の梅干しの例は、原文では知識と価値の2つのフィルターの例として紹介されているが、NNS 4 の再生文ではその違いが明確になっていない。下線部(21)は原文には書かれていないので、NNS 4 の推測である。

このように、NNS 7 と NNS 4 のプロトコルからは原文の結論部分が理解できていないと考えられる。

以上より、NNS のプロトコルからは NS と同様に本文を理解して内容を再構築できる人がいる一方で、再生率が低い NNS の場合には結論の部分が示せていないこと、日本語力の問題もあって原文に書かれていることがうまく言い換えできていないこと、理解したことをつなぎ合わせて誤った解釈をしてしまうことが問題であることが分かった。

(3) 筆記再生タスクのまとめ

NS の再生率には理解度が反映されていなかった。再生された IU からは、結論が書かれている後半部分がより多く再生されていることが分かった。プロトコルデータからは、内容理解で問題が見られた箇所はなく、本文をそのまま再生するよりもむしろ、理解したことを言い換え、要約、内容の再構築、などを行っていることが分かった。

一方、NNS では、再生率には理解度がある程度反映されていた。再生された IU からは、結論部分の再生が少ないことが分かった。また、プロトコルデータからは NS と同様に本文を理解して内容を再構築できるものがある一方で、結論まで再生できていないこと、理解したことを日本語でうまく言い換えられないこと、理解したことをつなぎ合わせて誤った解釈をしてしまっているのにモニターができず、気づかないままであること、などが問題点であることが分かった。

プロトコルデータ以外では、NSのテキストには重要箇所を囲む、下線を引く、ハイライトするなどの強調、問題提起や全体構造の把握に関するメモなどが見られた。NNSでもこのようなものが散見されたが、メモをとっていないものが多数であった。

6. まとめと考察

6.1. 2つのタスクから見た読解上の問題点

本稿では、読解の支援方法を考えるために、上級の中国人日本語学習者と日本語母語話者とを対象に、読解の再話・筆記再生タスクを行い、両者を比較・分析し、学習者の読解上の問題点を探った。

まず、再話タスクでは、NSには再生率に関わらず理解できており、読解の問題点は見られなかった。それは、内容を要約したり、言い換えたり、聞き手に応じて説明の内容を変えたり、分かりやすく説明したり、などがうまくできていることから分かる。一方、NNSは具体例は再生できていても、結論の部分は再生できていなかった。

次に、筆記再生タスクでは、NSには問題点は見られなかった。要約や言い換えはもちろん、内容の再構築ができていた。一方、NNSには、原文そのままの再生が多く、結論部分に相当するIUが提示されていなかったり、日本語による言い換えがうまくできなかったり、推測していてもそれが正しいかどうかのモニターはしていない可能性があることなどが分かった。

以上より、NSは再話であっても筆記再生であっても支障なく再生できるが、NNSは原文の前半部分に出てくる具体例を多用しながら説明できても、後半の結論部分を再生することが難しいことが分かった。

以下に、NNSの読解の問題点をまとめる。

- (1) 原文への依存度が高いので、NSのように原文を言い換えたり、要約したり、内容を再構築したりすることが難しい
- (2) NSのように相手に応じて内容を自由に言い換えて再生することは難しい
- (3) 大意がつかめているように見えても、結論部分が読めていないことが多い
- (4) 原文中の具体例は再生できるが、その具体例が結論とどのように結びつかまでは理解できていない
- (5) 単語や文などを組み合わせても推測がうまくでき

ず、読み誤ってしまうことがある

- (6) 自分の読みが間違っていることがモニターできないために、原文の内容と意味が異なってしまうことがある

6.2. 再話・筆記再生タスクの問題点

今回は、3つのテキストを用いてタスクを実施した。3つとも結論が最後に来る文章であったが、文章構造が異なっていたらどのような結果になっただろうか。文章構造については、館岡(1998)が文章構造が母語と異なると違和感があるかと聞いたところ、中国語母語話者の40%が「はい」と答えたという。このことは、中国語の文章構造が読解に何らかの影響を与える可能性があることを示唆している。

また、比較する際には、テキストの内容や単語なども含めたテキストのレベル、IUの数なども事前に調整しておく必要がある。

今回は、再生IUによる再生率を求めたが、これが理解度を必ずしも反映しているとは言えないことも分かった。そのため、プロトコルデータを利用して理解度を調査者が推測する方法を用いたが、内容理解度テストやそのほかの方法を組み合わせるなどして、学習者の理解の状況と問題点をより詳しく調べる方法についても検討する必要がある。併せて、日本語力が再生に与える影響を考慮し、母語による再生についても検討していきたい。

6.3. 今後の課題

読解の授業では、今回実施したような新聞記事などのテキストを読んでその内容報告をするという活動はよく行われているのではないだろうか。活動の目的によっても異なるが、内容がある程度つかめていれば、細かいところまでは問わないという場合も多いのではないだろうか。また、2人や3人のグループで内容報告の練習をしている場合などには、教師の目も届きにくく、理解できていない部分があっても、グループの中で何となく分かったという雰囲気になってしまうこともあるのではないだろうか。

藤井ほか(2012)が「上級学習者はさまざまな推測ストラテジーを使って、無理にでも自分なりの解釈をして納得してしまうため、よくわからないと思うことがほとんどない。」と指摘しているように、上級の学習

者に自分の読みを意識して、問題点を自覚してもらうことはなかなか難しいのではないと思われる。また、石井（2006）が第二言語の読み手が読む過程で重要なアイデアを選択するのは容易ではないと指摘しているように、テキストの重要な部分を見つけだし、その根拠を示す練習などを上級であっても取り入れていく必要があるだろう。

今回実施した再話と筆記再生タスクのプロトコルデータを用いて学習者にフィードバックを行ったところ、自分の話し方の特徴に気がついた、日本人の説明の仕方が分かった、日本人のまとめ方がいい見本になる、などのコメントが寄せられ、学習者が自らの学習を振り返るのに役立つことも分かった。今回のタスクは、教師が学習者の読解の問題点を把握するためだけでなく、学習者が自分の問題点を把握するのにも使うことができる。

今後もこのような活動を続けながら、学習者の読解の問題点に向き合い、学習者が自らの問題点に気づき、解決するための支援方法を考えていきたい。

付 記

本稿は、平成24年度科学研究費補助金基盤研究（C）「日本語学習者の読解を困難にする要因の解明とそのモデル化」（研究代表者：高橋亜紀子、課題番号24520563）の研究成果の一部である。

参考文献

- 石井怜子（2006）「図表の呈示及び完成が第二言語学習者の説明文読解に及ぼす影響—中級後半レベルの成人日本語学習者の場合—」『教育心理学研究』, 5, 498-508.
- 石黒圭・熊田道子・筒井 千絵・Olga Pokrovska・山田裕美子（2011）『留学生のための 読解トレーニング—読む力がアップする15のポイント—』凡人社
- 川村よし子（2009）『チュウ太の虎の巻—日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版
- 木村裕三（2001）「読みの力はいかに評価できるか」門田修平・野呂忠司（編）『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版, 273-309.
- 田川麻央（2012）「中級日本語学習者の読解における要点と構造の気づき—要点探索活動と構造探索活動の統合と順序の影響を考慮して—」『日本語教育』, 151号, 34-47.
- 館岡洋子（1996）「文章構造と要約文の型—原文の文章構造は要約文に反映されるか—」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』, 19, 29-51.
- 館岡洋子（1998）「文章構造と読解—英語・韓国語・中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者のテキスト評価と要約文の型—」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』, 21, 67-83.
- 館岡洋子（2005）『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習—』東海大学出版会
- 中川知佳子（2011）「リーディングの測定・評価」石川祥一・西田正・斉田智里（編）『英語教育学大系第13巻 テスティングと評価—4技能の測定から大学入試まで』大修館書店, 222-236.
- 二通信子（2006）「アカデミック・ライティングにつながるリーディングの学習」門倉正美・筒井洋一・三宅和子編『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』ひつじ書房, 99-113.
- 日本語読解学習支援システム Reading Tutor 「リーディングチュウ太」<http://language.tiu.ac.jp/>（2012年9月17日閲覧）
- 藤井明子・花田敦子・藤原深雪・野田尚（2012）「上級日本語学習者の読み誤り—学習者は学術論文をどこで読み誤るか—」『2012年度日本語教育学会春季大会予稿集』, 151-156.
- 古本裕美（2003）「日本語の文章は読解後にどのように再構成されるか（1）—日本語母語話者と上級日本語学習者の要約文を比較して—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第二部第52号, 243-251.
- Carrell, P.L. (1992). Awareness of Text Structure: Effects on Recall. *Language Learning*, 42, 1-20.

（平成24年9月28日受理）